

令和4年5月27日

令和4年度病害虫防除技術情報（第1号）

和歌山県農作物病害虫防除所

カキ炭疽病の発生状況と防除対策について

5月中旬現在、カキ炭疽病（写真1）の発生が一部地域で多い傾向です。今後、本病の発生に好適な気象条件となった場合、さらに発生量が増加することが予想されるため、前年に炭疽病が発生したほ場や現在発病枝がみられるほ場では、防除を徹底しましょう。

1. 病害虫名：カキ炭疽病
2. 対象作物：カキ
3. 対象地域：県北部
4. 予想発生量：やや多
5. 発生時期：5～11月
6. 発生状況等

- 1) 前年10月の「富有」の発生ほ場率は59%（平年47%）と平年に比べやや高く、発病果率は7.5%（平年2.7%）と平年に比べ高かった（図1）。
- 2) 本年5月の「富有」の発生ほ場率は6%（平年2%）、発病新梢率は0.7%（平年0.1%）といずれも平年に比べやや高かった（図2）。
- 3) 本病菌の胞子の発芽適温は25℃前後で、枝や果実の病斑上に形成された胞子が降雨のたびに飛散して感染が広がる。5月19日発表の近畿地方1か月予報によると、平均気温はほぼ平年並の見込み、降水量は平年並か多い見込みであり、本病の発病に好適な条件となる可能性がある。また、近畿地方の梅雨入り時期は平年6月6日ごろである。

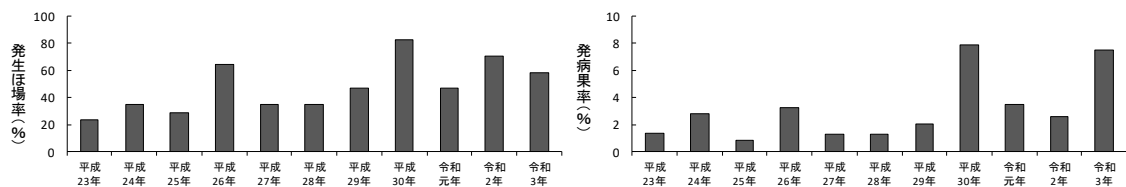


図1 カキ炭疽病の10月の発生状況(左:発生ほ場率、右:発病果率)
品種:「富有」、調査ほ場数:17ほ場

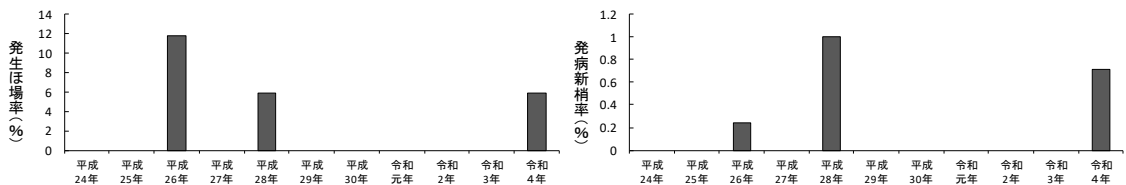


図2 カキ炭疽病の5月の発生状況(左:発生ほ場率、右:発病新梢率)
品種:「富有」、調査ほ場数:17ほ場



写真1 カキ炭疽病による新梢の病斑

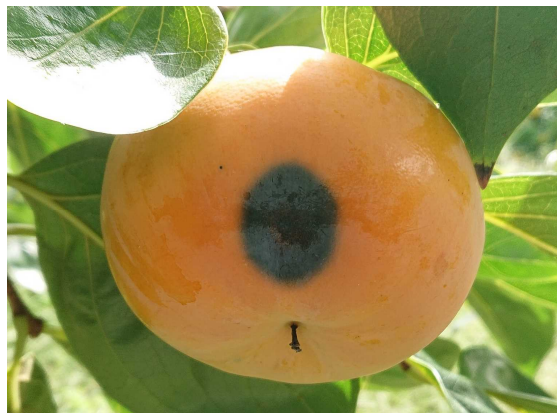


写真2 カキ炭疽病による収穫期の果実の被害(参考)

7. 防除上の注意事項

- 1) 発病枝や発病果実は伝染源になるため、見つけ次第切除してほ場外に持ち出し適切に処分する。
- 2) 防除適期は6月上旬～7月中旬と8月下旬～9月下旬である。前年に炭疽病が発生したほ場や現在発病枝がみられるほ場では、特に防除を徹底する。また、降雨が続くと予想される場合は事前に薬剤を散布し、できなかった場合は降雨後速やかに散布する。
- 3) 同一系統の薬剤 (QoI 剤及びベンゾイミダゾール系) の連用は耐性菌の発生を助長するので、複数系統の薬剤のローテーション散布を行う。
- 4) 防除薬剤は最新の登録情報 (農林水産省 農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>) を参照し、適正に使用する。
- 5) 軟弱徒長した枝が増えないように施肥による窒素過多や強剪定を控える。
- 6) 排水不良ほ場、密植で通風の悪いほ場は発病しやすいため、環境改善に努める。

和歌山県農作物病害虫防除所 紀の川駐在
電話：0736(73)2274